

こんにちは 新社会党

東京都中央区日本橋富沢町7-9京桜興産ビル3階 TEL 03-5643-6002 FAX 03-3639-0150

週刊新社会

2013年3月号

発行所：新社会党 発行者：松枝佳宏
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町7-9 京桜興産ビル3F
TEL 03 (5643) 6002 FAX 03 (3639) 0150
振替 00140-0-149727 1ヵ月600円 半160円 1部150円 40円

http://www.sinsyakai.or.jp E-mail:horibull@sinsyakai.or.jp

安倍政権

米国と財界の期待に応え、急速に右旋回

アクセル
踏み込んだ

TPP・改憲・普天間基地移設

第二次安倍政権が誕生して3カ月が経ちました。「危機突破内閣」と標榜する安倍内閣は「3本の矢」という金融緩和・財政バラマキ・成長戦略によってデフレ脱却ができる国民を幻惑して支持率を上げています。他方、「戦後レジームからの脱却」へ、これまでの保守政権ができなかった数々の反動政策を推進しています。

ウソとごまかしの TPP交渉参加

2月に訪米してオバマ大統領と首脳会談を行った安倍首相は「TPPに関する日米の共同声明」を発表。安倍首相は帰国後、「聖域なき関税撤廃が前提ではないことを確認した」とし、TPP交渉に参加する意向を表明しました。

しかし共同声明には「交渉に参加する場合には、全ての物品が交渉の対象とされること」が明確に記されています。安倍首相はオバマ大統領の「リップサービス」をあたかも聖域が確保されたかのようにごまかし、TPP交渉に参加しようとしています。

改憲発議を安易に 96条改悪を表明

自民党は昨年4月に「日本国憲法改正草案」を発表しました。

「草案」は天皇を「象徴」から「元首」に、自衛隊を「国防軍」に、国民主権を「国家主権」に変えるなど極めて危険な内容です。

しかし、憲法を改定するためにはいくつかの

ハードルがあります。その一つが憲法96条です。96条は改憲発議を衆参両院の3分の2以上の議員の賛成を必要としています。これを2分の1に変えると表明。7月の参議院選挙で「日本維新の会」なども含めて、改憲議席が3分の2以上になれば、96条改悪に着手する方針です。

県民の総意を無視 新基地建設に着手

日米首脳会談で強固な日米軍事一体化を約束した安倍首相は、沖縄の辺野古地区への新基地建設を強行しようとしています。「世界一危険な基地」とされる普天間基地の撤去は、沖縄の41全市町村が要求しています。そうした県民の民意を無視し、普天間基地機能を辺野古地域に移設するために埋め立て申請を県に提出しようとしているのです。

7月参議院選挙 統一名簿の実現を

昨年の総選挙の結果、自民党や維新の会が躍進しました。これは民意が正しく反映されない小選挙区制度の産物です。国民の大多数は格差と貧困の解消、TPPや消費税増税に反対です。沖縄米軍基地や原発はいらないと言っています。

改憲によって日本は戦争への道を歩むことになります。「改憲ハンタイ!」、その願いを参議院選挙に託しましょう。憲法改悪に反対する全ての政党が候補者を出し合い、統一名簿の選挙で協力すれば、安倍内閣の暴走を食い止められます。



福島原発事故から2年の避難者 命と精神をすり減らす日々

政府と東電は謝れ、完全賠償せよ、人間の尊厳を返せ！

福島第一原発事故から丸2年になりました。この間に自民党が政権に復帰し、原発政策も元に戻されようとしています。安倍首相は、オバマ大統領に原発ゼロ政策の見直しを約束しました。勢いづいたのは政府・電力会社をはじめ原子力ムラです。原発推進・再稼働へ猛烈な巻き返しに出ています。家も土地も故郷も、すべてを奪われた被害者が置き去りにされています。

事故の風化を許さない

国や東電、自治体などで原発事故を風化させようと動いています。たとえば核燃料サイクルについて、

前政権では使用済み核燃料の埋め立て処分や高速増殖炉「もんじゅ」の廃止が議論されました。それが安倍政権になった途端、経産省は使用済み核燃料の全量再処理Ⅱ核燃料サイクルと「もんじゅ」の継続方針を鮮明にしました。

東電、三菱、日立の原発メーカーは、原発産業の活路を海外に見出し、原発輸出に血道をあげています。最初から福島の原発はなかったかのようです。無責任の極みです。原発事故による避難者は16万

避難者を支えよう

人。福島県は、2020年に避難者ゼロを目標に掲げ、除染と帰還促進による支援縮小策をとっています。南相馬市では、年間1ミリシーベルトを超すところで、若者や子どもを参加させるマラソン大会を開催しました。

避難生活も3年目。「仮設住宅に入って月10万円はぜいたくだ」「東電から賠償金をもらって

生活できていいな」など、言われなき誹謗中傷が避難者の胸に刺さります。しかし、生活再建へ本格的な賠償手続きはまだ始まっていません。

避難者は生活再建の目途も立た

ないなか、精神と命をすり減らしています。浪江町から会津若松市へ避難している亀田安子さんはこう訴えています。

「帰りたくても帰れないこの現実。家族は二分にも、三分にもされ、子どもたちは住み慣れた町、学校も追われて友と離れ離れにされ、お年寄りには仲間とお茶飲みさえもできなくなり、避難途中に命を縮めた方もいました。生まれて初めて借家住まい、仮設住宅、寒い！暑い！と子供が泣くと隣に気を使い、大声は出せない、ストレスは計り知れないがあります」

「もう限界。政府と東電は完全賠償せよ、謝れ、人間の尊厳を返せ！東電を相手に損害賠償訴訟や告訴が相次いでいます。」

長いトンネルを抜けるまで、避難者の皆さんを支えましょう。

**ふるさとを返せ！
東電は完全賠償を**



新社会

お問い合わせ先